

楽しくビーチをきれいにしよう

静岡市内小学校

山田さん

今年の夏休みに、私は、家そくでいすりにょ行に行きました。フェリーにのっていすにむかう時、海の上を、ペットボトルがなみといっしょにながれているを見つけました。私は、

「あっ、これだ！」

と、思いました。なぜなら、学校のじゅぎょうで、海のプラスチックごみについて、へん強したからです。

学校のじゅぎょうで、ストローがはなにささったカメラや、ビニールぶくろをくらげとまちがえて食べてしまったイルカのことを知りました。そのゴミは、人間が道にポイすてしたものが風で川におち、川から海にながれついて、魚たちをきずつけていると学びました。

いすについてから、カヌーをこいで海をわたりました。私のカヌーのよこをビニールぶくろのゴミが通りました。カヌーの中で休けいしたビーチでも、おかしなぶくろのゴミを見つけました。でも私は、ゴミだけでなく青や水色のきれいなおはじきのような小石も見つけました。カヌーのガイドさんが、

「それはビーチグラスだよ」

と、教えてくれました。ビーチグラスは、海にながれついたビンのゴミが小さなかけらになったものだそうです。ビーチをさがすと、青色だけでなく、むらさきやピンク色のものや、色々な形のものがたくさん見つかりました。そして、ビーチグラスを近くのお店にもって行くといひことがあることも知りました。たとえば、三センチより大きいビーチグラスを三こ、とんかつ屋さんにもって行くと、エビフライ一本かシュー一本と交かんでできます。私は三センチより大きいビーチグラスは見つけられなかったけれど、たくさんきれいなビーチグラスのかけらと貝をひろいました。だからさがしてみたいで、とても楽しかったです。いっしょにプラスチックごみをひろうのも楽しくできます。家に帰ってから、そのたくさんのかげらと貝をくみ合わせて、お花とちょうを作りました。とてもいい夏休みの思い出になりました。

私は、ビーチグラスをあつめるのは、楽しくゴミひろいができるよひ方ほうだな、と思ひました。だから、たくさんの人にビーチグラスのことを知ってもらひたいです。そのための私の考えは、ビーチグラスをつかった作ひんのコンクールをひろくことです。みんなでゴミをひろいながらビーチグラスをあつめて、いろいろなものを作ってはっぴょうし合ったら、楽しいと思ひます。海もきれいになつて、お魚さ

んもうれしくなって、みんなえ顔になれると思います。

私はまた海に行って、ゴミもビーチグラスもたくさんあつめて、
こんどは王かんを作りたいです。

ゴミのイメージ

静岡市内中学校

天野さん

皆さんは、ゴミというものにどういうイメージをもっていますか？ほとんどの人は「汚れていて、汚いもの。廃棄物。いらぬもの。」と答えると思います。「ゴミ」という言葉の意味は三つあり、①土、砂、紙切れなどの細かい汚いもの、②使えなくなったり、いらなくなつて捨てたもの、③価値のないもの、と辞書に書いてありました。皆さんがイメージしていたのと同じだったと思います。けれど、私は大人になったときには「ゴミ」のイメージが変わっていてほしいと思います。「ゴミ」が今よりも価値のあるものになってほしいです。そうすればきっと今よりもゴミは減り、いろいろと利用される時代になつていると思います。

まず、ゴミを減らすために何ができるのでしょうか。

私は、小学六年生の時、友達とゴミ拾いをした時のことが印象に残っています。家の近くの広場でゴミ拾いをしました。ゴミを拾っている間、ちりとりや傘、電池などが落ちていました。私は、短い時間でもあつという間にたくさんものを拾うことができてびっくりしま

した。もちろん、ゴミが多いことはよいとは思いません。そして、拾うゴミが少なくなつたらいいな、と思いました。また、ゴミを拾う人が増えてほしいとも思いましたがそのような人はあまりいません。友達とゴミ拾いをして帰ってきたとき兄弟は「また、ゴミを拾ってきたの？」とあきれた顔で言い、ゴミ拾いに対しては何も関心を持ちませんでした。私も、拾っていて汚くなって思うときはありますが、来た時よりきれいになつてうれしいという気持ちになります。そのような気持ちから、私はゴミ拾いが好きになりました。けれど、なぜゴミが捨てられてしまったのだらうとも思いました。

ある日、友達とゴミ拾いをしているときに知らないおじさんが私たちに声をかけてくれました。「いつもここにタバコを捨てちゃつてゴミね。今度捨てようとしたら、おねえちゃんたちのことを思い出して、タバコを吸った後はそこらへんに捨てないようにするよ。」と言ってくれました。私はそれを言われてとてもうれしい気持ちになり、私たちがしていることが相手に伝わっているということがわかりました。この人のように、なんとなく捨ててしまっていた自分の行動をふり返って、直そうという人がもっと増えてほしいです。

他にも、ゴミを利用するために私たちは何ができるのでしょうか。

ペットボトルや段ボール、食品トレイなどはリサイクルボックスで

リサイクルしています。回収できないものは、そのままゴミとして出します。私はそれを、何か利用できないかと思いましたが。私の家では、

そして、ゴミを減らしていく仲間を増やして、ゴミのイメージを変えていきたいです。

半年前から生ゴミを利用する活動が始まりました。それはコンポストです。コンポストというのは家庭で生まれた生ゴミなどを、発酵させて作るたい肥です。そのたい肥を畑に混ぜて使用しています。この活動を始めてから私の家では二つの良いことがありました。一つ目は、出すゴミの量が減りました。生ゴミは水分を多く含んでいて重かったのですが、コンポストを行う前と比べて半分になりました。また、生ゴミを含んだゴミ袋には虫がつくので嫌だったのですが、生ゴミが減ったことで虫が減り、持ちやすくなりました。二つ目は、できたたい肥を土に混ぜると土が柔らかくなって野菜がよく育つ気がしました。畑でいろいろな種類の野菜を育てていますが、たい肥を入れると大きく育ちたくさん野菜がとれました。野菜を育てるためには、たい肥以外にもお水や肥料などいろいろ加える必要はありますが、今まで捨てていたものが利用できてとても嬉しくなりました。

私は今農業に興味があり、できれば将来環境にやさしい農家になりたいと思っています。ゴミを減らすためにコンポストを通して生ゴミを活用し、野菜を育てることができたら嬉しいです。作った野菜を売るときに、一緒にゴミを利用したということ伝えていきたいです。

かんきょうつてなに

袋井市内小学校

紅林さん

わたしのいえのかんきょう大じんは、おとうさんです。よく、ティッシュのつかいすぎに気をつけてね、と言います。しょうじき、どのくらいつかったらつかいすぎなのか分かりません。かんきょうという言葉は知りませんでした。なので、かんきょうのいみをしらべてみました。人や生きものまわりのせかいと書いてありました。そのせかいは、わたしの考え方ですぐにかわってしまっそうです。まだよく分かりません。

「もし、いえがゴミだらけでくさかったらどう思う。」
と、おかあさんにきかれました。わたしは、いやだし、すみたくないと思いました。もしちきゅうだったら同じようにいやな気もちになると思います。それに、うちゅうに一つしかありません。だから、いえもちきゅうも、人間の考えでかわってしまう、ということなのかなと思います。

わたしがよく言われるのは、エアコンをかけているときはドアを閉めてということと、テレビの見すぎです。でん気は、海のじめんのも

っとぶかいところからちきゅうをけすったものでつくられています。つかったらなくなるけど、いえにあるでん気でうごくものはぜんぶつようなものです。ちきゅうに人間がいるのはあたり前なので、人間がしあわせているのもいいことだと思います。

ちきゅうをよごすのは、大人だけだと思っていましたが、ちょっと考えてみたら、おかしを毎日たべてゴミを出していました。しょくじのときにティッシュをつかったらゴミになっていました。お風呂に入ったり手をあらうことも水をよごすことでした。どれもやめることはできないけど、つかうりようはへらせます。かんきょうは、いつもわたしの近くにあることなんだなと思いました。

しょうらいでできることを考えてみたけど、大人のわたしをそうぞうできないので、むずかしかったです。でも、三ヶ月後ぐらいの自分ならそうぞうできます。その間に、ちきゅうのためにできることを考えてみました。

ティッシュをまいをつかいきること。手あらいの水をよわく出す。ゴミは分べつする。でもゴミの分べつはとてもむずかしいです。わたしのおやはよく知っているのので、教えてもらいながらすていませます。でも、知らない大人は教えられません。それと、知りたいと思わない人もいるかもしれません。そんな人が多かったらちきゅうはどんどん

きたなくなってしまいます。わたしが考えたことは、ちきゅうがたいへんになっちゃうことを教えたらいいと思いました。かんきょうにいいって言ばがむずかしいので、ぜんぶのくにかんきょうが見れてしかも本とうにさわれるちきゅうがあったら、たいへんなことやこわいことがつたわると思います。

生ごみゼロを田舎って

富士宮市内小学校

新村さん

わたしは、学校で、「ごみはどこへ」というじゅ業をし、ごみ処理場へ社会科見学に行きました。そして、家から出たごみの種類と量を調べ、ごみをへらす大切さを知りました。ごみはリサイクルやリユースをする物もありますが、多くはもやして最終処分場でうめ立てられます。しかし、もやしてしまうと、けむりが原因で、空気がよごれり、地球温暖化につながってしまいます。さらに、はいをすてる最終処分場も多くあるわけでもないのです、いっばいになってしまいます。だから、もやすごみをリデュースしごみをへらすことをして地球をきれいなじょうたいに保てるようにしようと思いました。

家では生ごみがかならず出ていました。そこでキエーロという生ごみ処理器を作ることになりました。キエーロは黒土を大きな入れ物に入れただけの物です。どのように「土だけで処理しているのか」というと、黒土の中にいるび生物が、生ごみを分かいして消めつさせてくれているからです。び生物が分かいやすいように、生ごみを小さく切ったり、水をふくませる、土をよく混ぜ合わせ空気をふくませるこ

が大切です。

わたしの家では、七十リットルの黒土とたて五十四センチメートル、横七十二センチメートル、高さ三十センチメートルの入れ物をホームセンターで買ってきて、作りました。今、夏休みにどれくらい生ごみを処理できるかためています。七月二十一日から八月十二日まで、五千八百グラムをもえるごみに出していません。それでもまだ全てキエーロに入れられなくて、もえるごみとして出しています。キエーロの土の中にまだ分かいしきれいな生ごみが残っていたり、土をほってみて、くさいにおいがすると次の生ごみは入れられません。わたしの家では一日に約二百五十グラムの生ごみをへらしていますが、もう少しキエーロを大きくしたり、もう一つふやさなければ毎日の生ごみを処理できないと思います。また、キエーロの温度を毎日計って冬と夏の温度をくらべたいです。そうすることで、キエーロの処理量の変化を知り、ひつような土の量などを調べることもできます。

教科書では、一人あたり一日に約千グラムのごみを出していると書いてありました。わが家はふだん五人でくらしているのです、一日約五千グラムのごみを出しているという計算になります。わたしたちが生活する上で、ごみはかならず出ます。古紙やビンなどの種類を調べてみたり、もえるごみに出しているごみの重さを計ってみると、もっと

いみを入らずにコメントが見つかるかもしれません。

光害

静岡市内小学校

山本さん

「なぜ都心部では星が見えないと思う?」

理科で習った星座の話をしている弟に母が聞きました。僕は都心部に人がたくさんいて空気が汚れているからだと思っていました。でも光害だと母が教えてくれました。

それから光害について調べてみました。過じょうで不要な光が天体観測に障害をもたらしていること、生態系を混乱させていること、そしてエネルギーの浪費の一因になっていることがわかりました。

まずは天体観測への障害についてです。今のように電気がなかった時代、星はどのように見えていたんだろうと考えた時、写真はないけれど絵ならあると思いつきました。浮世絵です。星空が描かれた作品は、どれも今僕が見ている星とは違い鮮明で大きく、光っているのが良く分かります。電気がなくても、月と星だけで明るくも感じます。見え方の違いだけでも天体観測に影響を及ぼしているのが良く分かりました。

次に、生態系を混乱させていることについてです。海でウミカメラが

産卵し、ふ化した子ガメが自動販売機の明かりに向かって行ってしまい、海に戻れずに死んでしまうことがあるようです。夜行性生物はすみかに影響を受けることもあり、人間は快適に暮らしている一方で、こんな犠牲者もいたんだと知ると、胸が痛みました。

動物だけでなく、植物にも影響はあるようです。街灯に照らされた稲穂は発育が遅いそうです。逆にホウレンソウは早く花芽してしまうそうです。人の安全を守っているはずの街灯が、まさか僕たちの食べものにまで悪影響を及ぼしていることにびっくりしました。もっとびっくりしたことは、光害を阻止できるLED照明がすでに開発されていたことです。一秒間に数千回点滅をくり返して植物には照明が消えているように感じる仕組みだそうです。僕のように光害について全く知らない人がいる一方で、このような開発も進んでいて、無知な事が少し恥ずかしかったです。

最後にエネルギーの消費です。これについて、僕が学校でできる事と家で出来る事について考えました。学校でできることは、無駄な電気を消したり、学級新聞で光害のことをのせて、知らない人にも広めたりすることです。家でできる事は、僕一人で実せんしてもダメなので家族で考えました。まず誰もいない部屋はもちろん電気を消す、光があつたら便利だなという考えではなく、必要か不必要かを見極める、

夜は早く寝る、という意見が出ました。僕の家族だけでは小さな力に過ぎないけれど、持続可能な社会のためには一人一人の意識が大事だという事は学校で学んだゴミ問題や水の勉強で心に残っています。実せんすることによって、次の世代の人には、今僕が見ている星空より、もっときれいな星空が見られることを願っています。そして多くの人に光害を知ってもらうためにまず自分の周りの人から広めていきたいです。

今、私たちができること

静岡市内中学校

池村さん

SDGsと聞くと、大体の人が「知っている」と答えるだろう。しかし、SDGsに積極的に取り組んでいるか、と聞かれたら、みなさんはどう答えるだろうか。

そもそもSDGsとは何だろうか。SDGsとは、二〇三〇年までによりよい世界を目指す国際目標のことだ。持続可能な社会を実現するために、十七の目標が定められている。

私の家庭では、主に食事にSDGsを取り入れている。例えば、消費期限までに使いきる、野菜の皮も料理に使うなどしている。中でも、お肉の代わりに「大豆ミート」を使っている。大豆ミートの良いところは、そもそも動物の命をなくさなくて良いこと、お肉に比べてヘルシーなこと、食中毒の危険がないこと、二酸化炭素が減ること、たんぱく質がたくさん摂れて健康にいいこと、などがある。私も大豆ミートでハンバーグを作ったとき、少し失敗してしまっただけで、普通のお肉のハンバーグに比べて中まで火が通っているかなど、心配する必要もないと思う。そして、一番の大豆ミートの良いところは、お肉に

似ていることである。「これ、大豆ミートだよ。」と言われないと分からないくらい、見た目も味も似ている。だからこそ、もっともっと大豆ミートを世界に広めていくべきだと思う。

私が次に気をつけていることは、ペットボトルだ。家ではほぼ毎日炭酸水を飲んでいて、ペットボトルを毎日捨てることになる。私の中学校でも妹の小学校でも、ペットボトルキャップを回収している。そのため、家で捨てる前にキャップを洗って学校に持って行くようにしている。インターネットで調べたところ、ペットボトルキャップ二キロ（約千個）で一人分のフクチンになるそうだ。また、ポリ袋にも利用されている。このペットボトルキャップが少しでも世界のためになるなら、やろう！という人が増えるのではないだろうか。そこで、私たちが生きていく未来のために今、学校で取り組んでほしいことを考えた。それは、週に一回、一時間だけSDGsの十七の目標の中で一つを取り上げ、私たちに何ができるのかを生徒たちだけで考え、一週間実行してみるというものである。一ヶ月だと逆に長すぎて忘れてしまうけど、一週間ならみんなまで意識し合うことができると思う。しかも生徒だけで話し合うことによりクラスの仲も深まるし、たくさん良い案が出てくると思う。「授業」として扱うのではなく、私たち生徒が「この時間が好き！」と思えるような「未来をよりよい世界にする

会」として時間をつくってほしい。

私が通っていた小学校では、私が五・六年生のときに1ヶ月、このSDGsを意識してがんばりましょう！という企画があった。とても良い案で、きっと学校のためにもなるからいいなと思っていた。しかし、だんだん忘れてきてしまい、常に意識できなくなっていた。この目標を達成するためには先生が生徒に教えるのではなく、生徒同士で考えを深めていくことが大事だと思う。そして「一週間」と決めれば、短くも長すぎずでもなく、しっかりと身につくと思う。なので私は、この取り組みを行ってほしい。それだけでなく、SDGsの体験場所も造ってほしい。例えば、エコキャップはどのようにしてワクチンになっているのかや、専門家の方に話を聞いて、今後私たちの未来はどうなるかなどを聞ける場をつくってほしい。そこに、中学生・高校生が授業で見学したり、気楽にプライベートで家族や友人と行けるようにしたりして、今の世界の現状を皆さんに知ってもらいたい。

最近、全国ニュースでもよく放送されている訳アリの店がある。それは、食品ロスになる前に安く買える販売店のことだ。賞味期限が切れていたたり、近かったりする商品を格安で買うことができる。そのことにより、お金で苦しんでいる人も、みんなと同じものを食べることができると。私の家の周りには、そういった店がないのもっと増やしてほしい。

てほしい。

二〇三〇年までに達成すべき十七の目標、SDGsは残り八年を切った。八年後は、私は二十歳を超えている。そのときには、地球温暖化、環境問題という言葉が世の中で当たり前でない世界になってほしい。だからこそSDGs「持続可能な社会」を実現するために、人事にせず、「私は関係ない」と言う人が世界で誰一人いないように、みんなで取り組んでいきたい。世界中の全ての人が平等に生活できるように、今からでも真剣に考えていきたい。そして世界中で同じ「地球人」として今、私たちができる最大限の取り組みをして世界を救いたい。

登山のマナーと山の環境

静岡市内中学校

片岡さん

ぼくはよく家族と登山します。山には登山のマナーがあり、ぼくはゴミはポイ捨てをせず必ず持ち帰ること、立入り禁止区域に入らないこと、山の植物などを採取しないことなどをいつも当たり前だと思って守ってきました。しかし最近行った上高地での経験が、山でのマナーやルールの意味を考えるきっかけになりました。

上高地には、マイカー規制というものがあり、自分達の車では上高地の手前にある駐車場までしか行くことができません。上高地に入るには、バスやタクシーなど許可のおりている特定の車を利用する必要があります。マイカー規制が行われるようになった理由は、昭和十年代ごろから始まった山岳ブームによって車の出入りが多くなりすぎたためです。排気ガスがたくさん出て、自然へのえいきょうが深刻な問題になったそうです。今はとてもきれいな上高地の山の環境が損われたことがあったと知っておどろきました。五十年近くのしんぼつで、また良い環境にもどすことができたのはすばらしいことだと思えました。

また、上高地の帰りのタクシーで運転手さんから興味深い話を聞きました。テント泊をしていた女性が夜にクマにおそわれた事件があったそうです。クマの目的はテントの中にあつたレトルトカレーのパックだったらしく女性はテントごと十メートル以上引きずられました。軽いケガで済みました。この事件の後しばらくはテント泊が中止になったそうです。ぼくはこの女性が「クマに恨みはなく、むしろ申しわけないと思う」と話したというのが印象的でした。雨が続いて食料不足だった時に、人間の食料の味を覚えたクマとの共存は難しいと聞いた、と女性は話していました。上高地にはクマだけでなくサルもたくさん生息していて、ぼくも実際サルにそうぐうしました。サルは目の前を通りすぎてもこちらには興味はない様子でした。ぼくは食べ物をあげないというルールをていついていいるからこそ、サルが人間に興味を示さなかったのではないかと思いました。動物が人間の食べ物に依存してしまうことも、山の中の生態系を崩す原因になり環境を変えらることになるのだと気がつきました。

ぼくはこの上高地での経験から改めて自分が山で守っているルールやマナーの意味を考えました。ぼくは、山のマナーというものは人が安全に登山をし、登山者同士がお互いに気持ちよく過ごすためのものとしか考えていませんでした。しかし本当は山の環境を守るためのもの

のでもあることに気がつきました。例えば湿原などによくある本道やロープは、人がぬかるんだ道を歩かなくてもいいようにや道の外に落ちないように作ってあると思っていましたが、湿原の植物をふまない、環境を変えないという人にも植物にもやさしいものだと分かりました。

また、ぼくが好きな山のマナーの一つに登山道のゆずり合いがあります。登山道ではすれちがいの際に、一方が立ち止まってもう一方の人が通りすぎるのをまつというおもいやりのあるマナーです。このマナーも実は環境にやさしいマナーではないかと思えます。登山道はせまいので、お互いに道をゆずらなければ道の外に広がって歩くことになりません。そうすると道のはしや道の外にある植物がふみあらされてしまいます。上高地では、たくさん車が来たせいで環境がこわされました。道の外に広がって歩くのも同じことだと思います。自分にとっては一回その植物をふんだだけでも、みんなが同じようにマナーを守らず、百人ふんだら百回、千人ふんだら千回その植物はふまれます。みんながふみあらした場所には植物が生えなくなり、登山道が広がります。山にとっては小さなことかもしれないけれど、これも環境はかいてはないかと思えます。

人が入るとどうしても山の環境は変わります。自分が一回と行ってやったことが環境の変化につながります。だからクマにおそわれた女

性は「申しわけない」と言ったのだと思います。しかし上高地がマイカー規制で回復し、テント泊が再開しているように、山には自然の回復があります。一人一人が環境にはいりよする意識をもち、自分が自然に与えるえいきょうをできるかぎり小さくすることで環境を変えない努力ができると思います。

ぼくが登山を通して学んだマナーや考え方は、様々な環境問題にも当てはめることができると思います。これからも山以外の場所でも環境にはいりよして行動していきたいと思えます。

ライチョウの未来

地球温暖化がライチョウの命を奪う

静岡市内中学校

田村さん

みなさんは、現在北アルプス（富山県・長野県）、南アルプス（静岡県・山梨県・長野県）の高山地帯にしか生息しないライチョウという鳥を知っていますか。

私は今年の七月に立山黒部アルペンルートの長野県大町市扇沢から富山県の室堂の行程で家族でトレッキングの旅をしました。

この旅の中での一番の思い出は、富山県の立山の室堂平を歩いた時、ライチョウを見たことです。お母さんライチョウの周りで、一生懸命に餌の野草を食べる五匹の身体、ゆったりとした動きの小さなヒナのライチョウの姿がとてもかわいらしく、多くのハイカーの方たちも、カメラのシャッターを押していました。私は一目でライチョウのファインになり、ライチョウのことが知りたくなりました。そこで、ハイカーの方から、

「ライチョウのことが詳しく知りたかったら、室堂にある立山自然保護センターに行くと良いよ。」

と教えて頂き、行くことにしました。

センターのスタッフの方から、ライチョウについての色々なお話を聞かせてもらいました。

「海外のライチョウは、狩猟対象であるため人を見ると一目散に逃げますが、日本は昔から高山信仰があったので、高山に住むライチョウは神の鳥として守られてきた。また、ライチョウは日本が旧石器時代（氷河期）に大陸から渡ってきて、氷河が溶け始めて大陸に戻れなくなり、日本の高山に住みついた。日本のライチョウは、世界中のライチョウで一番南に生息し、日本には北アルプスと南アルプスにしか現在生息が確認できていない。」

などたくさん興味深いお話を聞かせていただきました。

その話の最後に、スタッフの方が、心配そうな顔で、

「ライチョウは現在国内に一七〇〇羽以下しか生存してなくて、絶滅危惧動物ⅡB（かなり危険）になってしまっていて、今、手を打たなければ国内絶滅のトキのような状態になってしまう。」

と話していました。そして、一番の原因は、私たち現代人が引き起こした地球温暖化だということを説明してくれました。その話を聞いて、地球温暖化とライチョウの関係を調べることにしました。

地球温暖化によって、ライチョウの命が奪われてしまう理由は三つ

あります。

一つ目は、ライチョウは季節ごとに体の羽の色が変わります。夏は茶色で土と同じ色になり、冬は雪と同じ白色になります。こうすることによって、天敵に見つかりにくくなるのです。しかし、地球温暖化の影響で、山に雪があまり降らなくなり、まだ雪が降っていないのに羽の色が白くなるので、逆に目立ってしまいます。その結果、天敵に見つかり食べられることが多くなってしまいました。

二つ目は、本来低地に生息するきつね、テン、カラスが地球温暖化によって高山帯に侵入し、ライチョウを襲うようになってしまったことです。

三つ目は、高山帯にまで上がってこなかったシカやサルが地球温暖化により、行動範囲を広げ、高山植物を荒らすようになってしまったことです。

私は、人なつっこくて、丸い身体、ゆったりとした動きのライチョウがとても好きなので、今すべにでも地球温暖化を止めたいです。

そのために、私が取り組んでいること、取り組もうとしていることは、大きく五つあります。

一つ目は節電です。私の家では、使っていない部屋の電気やエアコンは消して、使わない電化製品は電源を切り、コンセントからプラグを

抜いています。また、エアコンの設定温度は、夏は二十八度にしていきます。

二つ目は、自宅の窓際にゴーヤの緑のカーテンで、直射日光を遮るだけでなく、植物の蒸散作用で部屋の温度を下げて、エアコンの付ける時間を減らしています。

三つ目は、スーパーやコンビニへ買い物へ行くときはエコバックを持って行き、できるだけレジ袋をもらわないようにしています。

四つ目は、近くの場合にでかけるときは車は使わず、自転車を使うようにしています。

五つ目は、リサイクルです。当たり前のことですが、ポイ捨てはしないで牛乳パックやビン、カン、ペットボトル、古紙などリサイクルできるものは全てリサイクルボックスに入れていきます。

しかし、私達ができることをするだけでは、限界があると思います。地球温暖化を止めるためには、国が国民を導いていくことも必要だと思います。具体的には、太陽光発電や風力発電などの自然の負荷が少ない再生可能エネルギーを、さらに普及させるべきだと考えます。

一人一人が意識することに加えて国の政策を変えなくてはいけません。しかし、日本は個人の意識と国の政策が繋がっていないと思うことがあります。これは、私たち若者が政治に興味がないからです。

環境問題は私たちの未来に関わる大切なことです。環境を良くするための政策はどのようなものか、真剣に考え自分の意識を政策に反映させるために、今後、十八才になったら選挙に行くなど自分も国の方向を決めるという意識をもたなければいけないと思いました。